



那賀町立相生小学校

あいおい

令和6年度学校便り

NO.24

2024.11

発行

発行責任者

谷 多美子

冬至

11月7日に冬至をむかえ、ようやく富士山の初冠雪のニュースが聞かれました。明治27年に統計を取り始めて130年間で最も遅い観測だそうです。那賀奥の広葉樹もいつまでも青いままでしたが、ようやく紅葉シーズンらしくなる



6年生秋の句会



11月俳句集会の様子

と思います。ゆるやかな晩秋の訪れですが、子供たちはすでに細やかな季節の変化を五感を使ってとらえ、俳句で表すことができます。今年の秋の私の推しは「栗」でした。相生の大きな栗と出会うことができ、栗の皮むきも苦にならず、栗料理を満喫しました。「栗ご飯」を「祖母の味」と詠んだ俳句では、祖母の栗ご飯の記憶がずっと続いていくことを連想でき心温かくなりました。「柚子のせんべつ」作業におられる家族のいそがしい一コマを詠んだ俳句は、「自分も次の農繁期には手伝いをしたくなった。」と他の子供の感想に共鳴しました。彼岸花やオナモミ（ひつつきむし）など、子供たちの作品から、那賀町にはまだまだ豊かな自然があり、世代間の営みが残っていることが伝わってきます。これは、本校区の強みだと思います。季節が移りゆくこの時期に、五感を働かせ、豊かな言葉の力に変えて欲しいと思います。

徳島県小学校科学経験発表会

11月2日（土）徳島県教育会館で那賀郡の代表でさんが研究題目「雑草を枯らすには？」を発表しました。休耕田の除草に柚子酢の新たな価値を示唆する内容でした。鳴門教育大学 氏より「科学の力で身近な問題を解決しようとした強さと優しさにあふれる発表」と講評をいただきました。特選に選ばれました。おめでとうございます。



10月の月目標「自分や友達を大切にしよう」

先月、文部科学省が公表した調査結果では、昨年度比でいじめの認知件数は増加していることが明らかになりました。各学校で「いじめ防止対策推進法」への理解が深まり、早期発見・解決におけた対策が広がっていることも要因にあると思います。いじめを見逃さない、児童がいじめにおかわない環境づくりを継続して取り組みます。身近な教師が信頼される大人として寄り添いながら豊かな人権感覚や社会性を育てていきたいと思ひます。



10月21日に赴任された

先生より挨拶がありました。ギターや一輪車など特技がたくさんあるパワフルな先生です。阿南市より通勤されます。よろしくお願ひします。